

よこひな通信

3月号 令和6年2月22日発行



「あいさつ」

副校長 鈴木 剛

毎日、学校の廊下を歩いていると「おはようございます」「こんにちは」と、生徒の皆さんから声をかけてもらえます。もちろん、私から声をかけることもあります。あいさつをすると、声をかけることで相手の体調や、どんな気分かなということが少しわかりますし、あいさつのような短い言葉を交わすことで、そのあとの会話のきっかけにもつながると思います。

このあいさつという言葉は漢字で書くと「挨拶」と書きます。普段、あまり使わない、少し難しい漢字ですね。そして、この「挨拶」という漢字には次のような意味があります。

「挨拶」・・・「軽く前に押す」「心を開いて近づく」

「挨拶」・・・「相手に迫る」「すり寄る」

「押す」と「迫る」で押し合うということですから、要約すると自分の心を開いて、相手の心にも近づくという意味になります。あいさつは短い言葉ですが相手との距離を縮めて、そのあとのコミュニケーションをスムーズにする効果があります。

そもそも「おはようございます」や「こんにちは」といった言葉には、相手を思いやる気持ちがもたれているのです。

「おはようございます」の由来は歌舞伎とされていて、歌舞伎役者の準備には時間がかかるため、公演が始まるずっと前から到着して準備をしていたので、その役者に対して「お早いお着きでございます。朝早くから大変ですね。」という言葉が変化して今の形になりました。

「こんにちは」は「今日は、ご機嫌いかがですか」「今日は、よいお天気ですね」といった言葉が、明治時代の教科書に「今日は」以降が省略されていて、そのあと世の中に広まっていったそうです。

どちらの言葉も、今は短い言葉で表されていますが、相手を思いやって言葉をかけるというのがあいさつの始まりです。いろんな場所に行くと人々を会えば、まずは挨拶から一日が始まります。ただ言葉を口にするのではなく、相手を思いやる気持ちを込めて、いつも自分からあいさつをしてみたいかがでしょうか。きっと、相手を思いやるという気持ちは通じて、学校生活や社会に出て仕事をすることになっても役に立つはずですよ。

気持ちよく、元気に、歩いていたら立ち止まって、はっきりと大きな声であいさつをする。きっと、あいさつした相手も、気持ちよく挨拶を返してくれますよ。